

こまつ歌舞伎未来塾台湾公演事業 —第七回青少年才藝逗陣大會—

1 はじめに

こまつ歌舞伎未来塾は、石川県小松市に息づく伝統芸能の魅力を次の世代に伝え、将来の担い手を育成するために作られた伝統芸能教室です。歌舞伎、能楽、邦楽、義太夫の4教室があり、平成22年の設立以降、小松市と周辺市町の小・中学



生を中心に、多くの子供たちが伝統芸能を学んでいます。また、伝統芸能の素晴らしさ、小松の歌舞伎文化の魅力を多くの方々に発信しています。

この度、平成26年12月6日(土)、台湾・宜蘭県にある国立伝統芸術センターで開催された、「第七回青少年才藝逗陣大會」にご招待いただき、日本の伝統芸能を上演させていただきました。

こまつ歌舞伎未来塾では、発表会で日頃の成果を披露するほか、小松市内外で開催される文化イベントへの参加、福祉施設等への慰問活動などを行っていましたが、海外で公演を行うのは、今回の台湾公演事業が初めてでした。

初めての海外公演の機会を下さった交流協会、会場の国立伝統芸術センター、共演いただいた明心箏楽団の皆様をはじめ、公演に関わっていただきました皆様に、心から感謝いたします。

伝統芸能を通じた今回の交流が、台湾と日本をつなぐささやかな契機となり、今後も継続して交

流できることを願っております。

2 台湾と小松の文化交流

(1) 小松・台湾便デیلیー化記念『台湾ウィーク』

こまつ歌舞伎未来塾台湾公演事業は、平成24年12月に小松・台北便がデیلیー化されたことを記念して、平成25年8月19日(月)～25日(日)の期間に開催された『台湾ウィーク』を契機に、多くの方にご協力いただき実現しました。



「台湾ウィーク」は、小松市で毎年開催されている国際交流イベント「ジャパンテント in こまつ」と「スモールワールド in KOMATSU」に併せて行われ、台湾オペラの公演や写真展、グルメ屋台を通じた台湾文化の紹介が行なわれました。

① 台湾オペラ -小松公演-

平成25年8月25日(日)、台湾人間国宝の廖瓊枝氏が率いる台湾オペラ劇団と、台北市永樂国民小学校、新北市秀朗国民小学校の台湾こどもオペラ劇団による小松公演が開催されました。

台湾の伝統芸能「歌仔戲」(台湾オペラ)を見るために、小松市内のみならず市外・県外から延べ1,200人が訪れ、会場は大いに盛り上がりました。

公演には、小松市内のミュージカル劇団も出演

し、小松と台湾の演劇を通じた文化交流となりました。

② 台湾パネル写真展・台湾グルメ屋台

台湾観光協会やエバー航空の協力のもと、台湾の観光名所や建築物、料理などが紹介されました。揚げたてのさつまいも天ぷらや台湾の香辛料、台湾茶の飲み比べには、多くの方が関心を持ち、常に人だかりになる程、好評でした。

(2) 日・台青少年文化交流

歌手で日・台文化交流サポーターを努める寒雲さんは、平成4年から日本で歌手活動を行う傍ら、自身のチャリティコンサートや、伝統芸能や音楽を通じた台湾と日本の文化交流「日・台青少年文化交流」をプロデュースしています。

小松市では、平成13年に初めて明心箏楽団と正心箏楽団が小松市内の小学校を訪問し、箏の公演が行われました。その後、平成24年度からは毎年、明心箏楽団や台湾国民小学校の箏楽団が小松市の小・中学校を訪れ、箏の演奏を通じた交流を行っています。

しかし、今回の事業が実現するまで、小松市の小・中学生が台湾を訪問し、現地で日本の伝統芸能を披露する機会はなく、平成25年8月の台湾ウィークの開催を契機に、小松の伝統芸能をぜひ台湾で披露してほしいという声が上がりました。

(3) 小松市の伝統芸能を台湾へ

小松市は、小松の歌舞伎文化や伝統芸能の魅力を海外へ広く発信したいと、海外での伝統芸能公演を検討していました。そこで寒雲さんからのご提案を受け、こまつ歌舞伎未来塾を台湾に派遣し、伝統芸能の公演を実施しようという企画が持ち上がりました。

寒雲さんからご提案いただいた企画は、台湾・宜蘭県にある国立伝統芸術センターで、毎年12月の1ヵ月間を通して開催される「青少年才藝逗

陣大會」に明心箏楽団と一緒に、小松の伝統芸能団体が出演するというものでした。

平成26年5月、小松市から正式に依頼を受け、こまつ歌舞伎未来塾が台湾で小松の伝統芸能をご披露することになりました。こまつ歌舞伎未来塾では、歌舞伎・能楽・邦楽・義太夫の4つの伝統芸能教室を行っていますが、海外で公演するためには、舞台設営を軽微なものにする必要がありました。そして、わかり易く華やかな演目である、能「羽衣」と日本舞踊を上演することに決定しました。

能「羽衣」は、日本各地に伝わる「羽衣伝説」を元に作られた演目です。ヨーロッパ各地では「白鳥伝説」と伝えられていますが、少し違った物語になっています。

3 台湾公演に向けて

(1) オーディション

平成26年6月、台湾で日本の伝統芸能を上演できる貴重な機会を、より多くの子供たちに経験してもらうため、小松市と周辺市町の小中学生を対象に、子供役者を広く募集しました。

小松市・能美市・加賀市の3市から、14名の小中学生（日本舞踊4名、能10名）が応募され、なかには、伝統芸能を経験したことがない応募者もいました。オーディションでは、各人が台湾公演にかける熱い思いを表現してくれたため、指導者からは、本番までの5ヵ月あまりで舞台上に上がる技術を伝えたいと評価され、応募者全員を採用し、台湾公演に臨むことになりました。

(2) 日・台青少年文化交流

台湾での公演に先立ち、平成26年9月25日（木）～9月29日（月）の5日間、台湾公演で共演する明心箏楽団と竹林国民小学校箏演奏団合わせて41名が、日・台青少年文化交流事業の一環で、小松市の小・中学校とこまつ歌舞伎未来塾を訪れ



ました。

訪問団は、小松市内の国府中学校と苗代小学校で、台湾伝統楽器「箏」の演奏会を行いました。その後、こまつ歌舞伎未来塾の稽古場所を訪れ、日本の伝統芸能「能」を鑑賞し、能で使用される和楽器や仕舞などの体験をしました。

能楽の体験では、こまつ歌舞伎未来塾の子供役者たちが積極的にコミュニケーションを図ろうと、台湾の小・中学生に和楽器の使い方や能特有の仕舞を教えていました。12月の本番を3ヶ月後に控えた子供役者たちにとって、共演するメンバーと事前に交流できたことは、海外公演の不安を取り除くとてもよい機会になりました。

また、この日は、明心箏楽団団長の林耕華さんと舞台監督を務める莫林以埜さんとお会いすることができ、舞台の設営や演出方法などを打ち合わせることができ、本番に向けた準備を一層進めることができました。

(3) 台湾講座

日・台青少年文化交流で、子供役者たちは、楽器や仕舞を通して、台湾の小・中学生と仲良くなることができましたが、言葉を使ったコミュニケーションはほとんどできませんでした。

そこで、石川県で活動する国際交流団体に協力いただき、台湾の文化や生活、あいさつなどの勉



強会を行いました。

子供役者たちは、台湾の食事やトイレのマナーに驚きながらも、あいさつや日常会話を積極的に練習しました。

(4) お披露目会

平成26年11月29日(土)、本番を直前に控え、こまつ歌舞伎未来塾を応援してくださった小松市民の皆様へ、お稽古の成果を披露しました。

お披露目会では、台湾で上演する、日本舞踊「花見道成寺」「菊づくし」「藤娘」、能「羽衣」を上演し、子供役者が一人ずつ、「日本の文化を伝えられるように頑張りたい」など、抱負を語りました。

公演の仕上がりは、とても素晴らしいものでした。観客のみなさまからは、自信を持って日本の伝統芸能の魅力を伝えてきてくださいと励ましのお言葉をいただきました。

4 こまつ歌舞伎未来塾台湾公演

(1) 台湾公演事業のスケジュール

こまつ歌舞伎未来塾台湾公演 - 第七回青少年才藝逗陣大會 - の日程

12月4日(木)

小松空港から台湾・桃園国際空港へ。城市商

旅・航空館に宿泊。

12月5日（金）

会場・宿舎である宜蘭県・国立伝統芸術センターに移動。第七回青少年才藝逗陣大會の記者会見に参加。リハーサル後、明心箏楽団と夕食会・交流会。

12月6日（土）

第七回青少年才藝逗陣大會に出演、午前・午後の2回公演。

〈演目〉日本舞踊：「花見道成寺」「菊づくし」「藤娘」 能：「羽衣」

公演終了後、台北市内へ移動。士林夜市を観光。インペリアルホテル台北に宿泊。

12月7日（日）

忠烈祠、総督府、中正紀念堂を観光。

昼食後、桃園国際空港から小松空港へ。

（2）台湾公演に向けて小松を出発【平成26年12月4日（木）】

いよいよ台湾に向けて出発する日。直前まで体調を崩していた子供役者も回復し、全員で出発日を迎えることができました。

海外旅行自体が初めてという子供役者も多く、緊張の中で搭乗手続きを終えました。

小松空港台湾便の出発時刻は、日本時間19時30分と遅い時間のうえ、使用する飛行機が遅れたこともあり、台湾・桃園国際空港に到着した時には、台湾時間の23時を過ぎていました。

到着ロビーに着くと、林さんをはじめ、明心箏楽団の皆さんが出迎えに来てくれました。子供役者は小学4年生から中学1年生までと、普段であれば、寝ている時間ですが、友達との再会に元気な姿を見せてくれました。

しかし、翌日の出発時刻は早朝6時、急いで宿泊ホテルに向かいました。

（3）本番前日！大忙しの日です【平成26年12月5日（金）】

〈会場・国立伝統芸術センターへ〉

早朝6時、会場となる宜蘭県・国立伝統芸術センターに向けて出発しました。

前日の夜は、あまり休めていないにもかかわらず、移動のバスでは、子供役者たちは元気に大はしゃぎ。初めて見る街の景色を楽しんでいました。

〈記者会見〉

午前9時30分ごろ、国立伝統芸術センターに到着すると、すでに記者会見の準備が行われており、リハーサルの開始まで30分しかありません。日本舞踊と能の2芸能の紹介をしたいところでしたが、30分では能の準備はとて間に合いません。日本舞踊を演じる子供役者が、できる限りの着付け・メイクを行いました。

記者会見は、第7回青少年才藝逗陣大會に出場する、明心箏楽団、宜蘭育英國小歌仔戲團とこまつ歌舞伎未来塾の3団体で行いました。

リハーサルの舞台裏では、子供役者たちが早速、日本で勉強した台湾語で話しかけます。台湾語で





あいさつすると、日本語で答えてくれる場面もあり、お互いに名前や年齢など自己紹介をしていました。台湾の子供役者やスタッフからは、衣裳がとても綺麗だと言ってもらえ、写真撮影を受けていました。

記者会見では、公演当日に演じる演目の一つ、日本舞踊「藤娘」を披露しました。

その後、司会者の簡愷樂さんから、こまつ歌舞伎未来塾の活動や日本舞踊の衣裳などを紹介していただきました。また、舞台あいさつ中には、簡さんから、日本舞踊の決めポーズを教えてほしいと言われ、子供役者が自分の好きなポーズを取ると、一緒に真似してくれる場面もありました。

記者会見には、台湾のテレビ局や新聞社など多くの方々に来ていただき、翌日の新聞やインターネットで大きく紹介していただきました。

〈リハーサル〉

記者会見を無事に終わると、午後からのリハーサルに向けて、舞台の準備を始めました。

日本での上演映像を事前に舞台スタッフに渡して頂いていたこともあり、舞台設営については問題なく進めることができました。

使用する舞台は、普段よりも奥行きが短いものになり、子供役者たちは舞台に入るなり、立ち位置や通り返の確認を入念に行いました。

司会も入れたリハーサルが始まると、演目の紹介が台湾語でされるため、出だしのタイミングが分かりません。子供役者には、その場の流れに合わせて演出することが求められましたが、リハーサル中にうまく対応できるようになりました。

〈夕食会〉

リハーサルを終えると、明心箏楽団が夕食会と交流会を開催してくれました。

台湾に来て、ホテルの朝食やお弁当などをいただいていたため、本格的な台湾料理はこの夕食会が初めてでした。

子供役者たちは、何かよく分からないけどおいしいと初めての台湾料理に喜んでいました。また、台湾の料理や香辛料のことを教えていただき、保護者も一緒に食事を楽しみました。



食事を終えると、子供役者たちは、日本から持ってきた折り紙を取り出します。台湾でも折り紙はあるようですが、鶴や花、ハートなど、いろいろなものを折ってプレゼントすると、大変喜んでもらえました。

〈交流会〉

国立伝統芸術センターの体育館で交流会が行われ、明心箏楽団のみなさんから、台湾の遊びを教えてもらい、一緒に体験しました。

子供役者はあいさつ程度の台湾語しか勉強していないので、片言の英語やジェスチャーでルールを教えてもらいます。

翌日に本番を控えているので、1時間ほどの短い時間でしたが、より一層親睦を深めることができました。



（4）いよいよ本番当日！【平成 26 年 12 月 6 日（土）】

〈本番成功への決意〉

こまつ歌舞伎未来塾台湾公演の本番当日、子供役者たちは、前日までの疲れも見せず、元気な様子で舞台に集まってきます。

普段のお稽古や発表会で経験を積んできた子供役者ばかりで、緊張することもなく、早く舞台を楽しみたいという声が多かったことには驚かされ



ました。

本番直前の舞台裏では、指導者から「自信を持って日本の伝統芸能を披露してほしい」と、激励がありました。6月から約半年の間、子供役者の成長を見守ってきた指導者の胸にも込み上げるものがあり、全員で舞台の成功を誓いました。

〈第七回青少年才藝逗陣大會〉

第一幕 明心箏楽団

（台湾箏楽曲）

- 1 迎賓曲
- 2 驛馬車
- 3 友邦本色
- 4 台東遊子吟
- 5 春神
- 6 雁渡斜陽
- 7 酒狂

第二幕 こまつ歌舞伎未来塾

（日本舞踊）

- 1 花見道成寺
- 2 菊づくし
- 3 藤娘

第三幕 こまつ歌舞伎未来塾

（能）

1 羽衣

第四幕 明心箏樂團

(台灣箏樂曲)

1 豫遊傳藝

〈満員御礼〉

会場には、すでに多くのお客さんが集まり、台湾の芸能への関心の高さが伺えました。

お客さんの手元を見ると、こまつ歌舞伎未来塾が書かれたチラシを持っていました！

当日まで知らされていなかったのですが、国立伝統芸術センターが観客の皆さんに配ってくださっていたのです。チラシには、こまつ歌舞伎未来塾の紹介や台湾と小松の文化交流などが書かれており、来場のみなさんへのPRになりました。

明心箏樂團の箏の演奏が始まると、子供役者たちは舞台袖に移動します。

ここでも、子供役者は全く緊張する様子は見せず、本番はどのように紹介されるかな？と楽しみに待っていました。



〈日本舞踊「花見道成寺」「菊づくし」「藤娘」〉

明心箏樂團の演奏が終わり、司会者がこまつ歌舞伎未来塾の紹介をしていると、1演目の「花見道成寺」の音楽が鳴り始めます。このタイミング



に、子供役者も驚いていましたが、上手く曲調にあわせ、舞台に上がります。

華やかな衣裳で優雅な舞(踊り)を披露すると、会場からは大きな拍手が起こります。

日本舞踊の魅力は、手先や目線、ちょっとした首や肩の使い方によって、細やかな心情を表現するところにあります。

会場のスクリーンには、演目の紹介が台湾語で表示されており、観客の皆さんにも、演技に込められた心情が伝わったのではないかと思います。

〈能「羽衣」〉

日本舞踊に続いて、能「羽衣」の上演です。

能の演技は、ゆったりとした動作で、喜怒哀楽の表現を最小限にし、笑い声や泣き声はなく、舞いや振りで心情を表現します。そのため、歌仔戲や日本舞踊と比べると華やかな動きが少なく、台



湾の観客の皆さんに受け入れていただけるか不安でした。

「羽衣」の元となるのは、世界各地に残る「白鳥伝説」と言われておりますが、能「羽衣」では、すこし違った物語になっています。

白鳥伝説では、男(漁夫)が羽衣を返さないの、天女はやむを得ず男の妻となり、子供ができた後、隙を見て羽衣を取り返し、天界に帰ります。しかし、能「羽衣」では、男が天女の悲しむ姿を哀れんで、自ら羽衣を返すように作られ、男と天女のやり取りが、作品を格調あるものになっています。

観客の皆さんは、能のゆったりとした動作に驚いていたかもしれませんが、スクリーンに移される台湾語訳を見ながら、能の舞いと日本特有の物語に魅入っていました。

〈フィナーレ〉

能の上演では、普段以上に声と音が出ており、今までの中でも最高の舞台に仕上がりました。観客の皆さんからは、日本舞踊と同様に大きな拍手と声援をいただきました。

能の出演者が退場すると、ステージの後ろから明心箏楽団の演奏が始まり、会場全体が盛り上がる中、出演者全員がステージ上がりフィナーレを迎えます。

司会者から、出演した子供たちが紹介され、台湾と日本の共演舞台を行えたことを感謝し、こま



つ歌舞伎未来塾台湾公演事業を成功裏に終えることができました。

〈国立伝統芸術センター出発の時〉

フィナーレを終えた舞台裏では、出演者や関係者が集まり記念撮影を行いました。

9月に初めて会った仲間ですが、子供たちはすっかり友達になり、写真を撮り合っていました。会場を出発する時間が迫っていました。

今回、共演した仲間の何人かは、2月に日本にやってきます。日本での再会を約束し、国立伝統芸術センターをあとにします。

〈士林夜市〉

台北市に戻ると、ここからはお待ちかねの台湾観光です。

翌日のお昼に出国するまでの僅かな時間でした

が、見事に日本の伝統芸能の魅力を伝えた子供役者に、台湾を楽しんでもらおうと、士林夜市へ向かいます。

バスの中では疲れを見せていても、台湾公演を無事やりとげた安堵感、そして成功させた充実感もあり、士林夜市に着くと、子供達は元気を取り戻し、買い物や台湾式かき氷などを満喫していました。

(5) 台湾お別れの日【平成 26 年 12 月 7 日(日)】

〈台湾観光〉

こまつ歌舞伎未来塾台湾公演の最終日。

台北市内のお土産店や、忠烈祠、総督府、中正紀念堂などをめぐり、台湾の歴史文化に触れました。

〈日本に帰国〉

日本時間 18 時頃に、日本に戻ってくると、子供役者の保護者をはじめ、小松市の職員の皆さんが出迎えてくれました。

訪問団の団長からは、「大変素晴らしい公演でした、台湾の人たちに日本の伝統を伝えた貴重な機会を誇りにし、今後も小松の伝統を守って欲しい」と感謝と激励の言葉をいただきました。

今回の訪問団は、オーディションで選ばれた一時的な組織でしたが、これからも一緒に活動を続けたいという気持ちがみんなの中に溢れていまし



た。しばらくは、それぞれの芸能に分かれて活動することになりますが、また同じ舞台に立とうと約束し、こまつ歌舞伎未来塾台湾公演の訪問団は解散となりました。

5 参加者の感想

〈日本舞踊〉

稚松小学校 5 年 村井 浩之助

僕は、市川流の踊りを今年の冬に習い始めました。台湾公演のオーディションが 6 月だったので、習い始めてまもなく、合格できるか不安でした。だから、合格して公演に参加できることになった時は、家中を走り回りたいくらい大喜びしました。

それで、いい演技を披露できるように市川ぼたん先生のお稽古も家での演習も必死でがんばりました。

台湾公演では、先生に教わったことを注意して、今までの成果を出せるようにがんばりました。

最初は、難しそうだったけど、練習を積み重ねていくうちに自信ができました。がんばって、とても自分のためになりました。

台湾では、移動時間が多く大変でしたが、最後は現地の人たちや明心箏楽団のみなさんや、竹林小学校のみなさんと楽しい交流ができて、とても楽しかったです。特に日本側にも台湾側にも男の子がいなくて残念でしたが、交流会に来てくれた男の子が一人いて、その子と仲良くできてうれしかったです。英語でしゃべりかけてくれたので、僕も英語の勉強をしたいと思います。

また、最初は、女の子ばかりでちょっとつまらなかったけど、少しずつ話しをしたり交流したりして、帰ってからは、あのメンバーでもう一度台湾に行きたいと思いました。

この台湾公演は、僕にとってものすごく楽しい思い出となりました。本当にありがとうございました。

これからも踊りを頑張っていきたいと思います。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

〈能〉

芦城中学校1年 朝井たしぎ

私が、台湾公演で一番うれしかったことは、日本で交流会をした時にあった人が、私のことを覚えていてくれたことです。その子は、公演をする国立伝統芸術センターで、私に手を振ってくれました。もしかしたら、その子は何となく手を振っただけかもしれません。でも、私はそれだけでとてもうれしく感じました。

能の本番は、リハーサルの時に舞台にあったほこりを吸ってしまって、声が出にくくなってしまいました。でも、同じ地謡の、瑠奈やひたきやはるかちゃんがとてもがんばってくれて、最高の舞台になりました。それと同時に、私の目標だった「楽しく謡う」という目標を達成することができました。

交流会では、まずみんなでご飯を食べました。私は、日本から和風の折り紙を持って行きました。なぜなら、小学生の頃に外国の人の前で折り紙を折ってプレゼントしたら、とても喜んでくれたからです。私が、台湾の通訳の人に台湾に折り紙があるか聞いてみました。

そしたら、台湾の折り紙があると答えたので、折り紙を折ってプレゼントして、喜んでもらえるのかとても心配になりました。

けれど、みんなで折り紙を折って台湾の人にプレゼントすると、とても喜んでくれました。

途中で、台湾の人たちにハートの折り方を教えました。たまに、言葉が必要なときはシテのもちゃんが英語を習っているのので、英語で言ってもらおうと通じました。

私が今回の台湾公演で学んだことは、言葉が通じなくても、楽しめるということです。日本の能や日本舞踊は中国語になってパネルに出ていましたが、台湾の人の劇は日本語になって出てきませんでしたが、動作などでどんな劇なのか分かりました。交流の時も、ほとんど話さずに、ジェスチャーなどで伝えることができました。

台湾で公演をすることができたのは、日頃お世話になっている長野先生や、サポートして下さった多くの人のお陰です。その人達への感謝を込めて、これからも能を続けていきたいと思っています。

6 おわりに

こまつ歌舞伎未来塾台湾公演事業で、台湾の歴史や文化を学び、芸能を通じた文化交流をすることができたことは、訪問した子供役者たちにとって、貴重な財産になったと思います。また、台湾の皆さんに、日本の伝統芸能を鑑賞するだけでなく、実際に体験してもらうことができたことを大変嬉しく思います。

改めて、交流協会、国立伝統芸術センター、明心箏楽団の皆さんをはじめ、ご協力いただきましたすべての方々に心から感謝いたしますとともに、今回の公演を契機に、台湾と日本、小松市との交流がますます進むことを期待しています。

こまつ歌舞伎未来塾といたしましても、台湾をはじめ、海外の皆さんに日本の伝統芸能の魅力を伝える活動を続けていきたいと思っています。